

ON!

Old but New

伝統を残しながら、変わり続ける街
大手町・丸の内・有楽町の
街づくりを発信する情報誌



銀幕の記憶、街の記憶

～変わる街、変わらぬ街～

Memories of the City on Film

2005 AUTUMN

006

▲①映画「東京丸の内」(1962年公開)＝行幸通りから仲通りを見る。右側が新丸ビル、左側が東京海上ビル(いずれも当時)。中央は高倉健、左から2番目が佐久間良子。山登りが趣味で正義感が強い加部(高倉健)と同僚の高宮曜子(佐久間良子)を中心に繰り広げられるサラリーマン青春物語。服装が時代を感じさせる。監督・小西通雄/写真協力:東映株式会社



サラリーマンを主役とした映画の多くが
この街で撮影されている。
しかし、現在の大丸有はビジネスの街としての
DNAを強く引き継ぎながらも
多面性を持つ街へと様変わりしてきた。
変わった部分と、頑なに守り続ける部分。
映画の中に記録された街の姿を追うことで
今の大丸有を見つめ直してみる。

*裏表紙に、映画のロケ場所を示したMAPがあります。

◀ ②映画「ニッポン無責任時代」(1962年公開) = 外堀通り大和証券ビル前。

東宝クレージー映画の記念すべき第1作。口八丁手八丁の“無責任サラリーマン”がさまざまな騒動を巻き起こす。東京オリンピック控え景気も上向き、従来の減私奉公型サラリーマン像を脱却しようと、どこか開放的な時代の気分が感じられる。写真は主人公の平均(たいらひとし、植木等)と女秘書の愛子(重山規子)が会社(太平洋酒)の前で話しているところ。電柱が懐かしい。

監督・古沢憲吾 / 写真協力：東宝株式会社

▶ 現在の大和証券ビル前。道路を歩く人たちは男性ビジネスマンばかりでなく女性の姿も目立つようになり、ファッションもずいぶんカラフルになった。周囲も高層ビルが増えたが、大和証券ビル、奥の第一鉄鋼ビルなどはほぼそのままの外観を残している。変わる部分と、変わらない部分を象徴する景観だ。





Marunouchi 1964

映画ではサラリーマンが踊りを繰り広げた新丸ビル前仲通り。
2007年には、地上38階、高さ198mの高層ビルになる。



③映画「君も出世ができる」(1964年公開) = 仲通りを行幸通りに向かってのアングル。左が新丸ビル。仲通りを400人のサラリーマンが踊るシーンは圧巻。
監督・須川栄三 / 写真協力：東宝株式会社

丸ビルと並び東京駅正面のランドマークともいべき新丸ビルは2007年に完成予定。

▼映画とほぼ同アングルの現在の仲通り。左手前が工事中的の新丸ビル。その奥に丸ビルが見える。



出世欲の強いサラリーマン山川(フランキー堺)とその後輩でのんびり型サラリーマンの中井(高島忠夫)、そこに社長令嬢(雪村いづみ)がからむラブコメディ。映画の定番的なストーリーともいえる作品だが、この映画がすごいのは、はじめから終わりまで全編歌って踊っ

ての和製ミュージカルだということ。しかも音楽は黛敏郎、作詞は谷川俊太郎。なかでも丸の内の仲通りをサラリーマンが歌い踊る場面は迫力満点で、今の時代にこのエネルギーを少し分けて欲しいと思うほどだ。

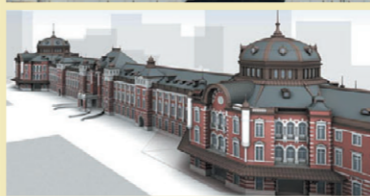
Marunouchi 1958

凛として聳えるオフィスから
人が集まる場所へ。丸ビルはその姿を大きく変えた。



④映画「彼岸花」(1958年公開)より=東京駅の南側ドームと丸ビル。
監督・小津安二郎 / 写真協力：松竹株式会社

▼映画より少し上からのアングルで撮った現在の姿。丸ビルは、高層となりそこに行き交う人も、サラリーマンというよりショッピングや食事を楽しむ人が中心になってきた。



◀映画撮影当時も現在も2階建て三角屋根の駅舎は、2010年には戦前と同じ3階建てドーム屋根に戻る予定だ。
写真協力：JR東日本



娘(有馬稲子)の結婚と父親(佐分利信)の複雑な心模様を描いた作品。妻役が田中絹代、娘の結婚相手が佐田啓二という豪華版。小津映画のカラー第1作で、街並みを映す構図の妙だけでなく色彩の楽しさも堪能できる。作品冒頭、父親が友人の娘の結婚式に参加

するシーンで、東京駅の駅舎が大写しになる。その背後には丸ビルがどっしり構え、勤務先は丸ビル、結婚式は東京ステーションホテルという、小津映画に見る当時のOLの理想がそこから読みとれる。東京駅から新婚旅行へ出かけるというのも小津映画ではよくみる。



Ohtemachi 1988

21世紀を迎えたいま、
この街にも新しい「会社物語」がはじまっている。



⑤映画「会社物語」(1988年公開)より=仲通りの北端から、ビル
の間に大手町ビルを見る。
右が当時の安田火災大手町ビル(現・大手町フィナンシャルセンター)、
左は当時のNTT千代田ビル(現・大手町ファーストスクエア)だ。
監督・市川 準/写真協力:松竹株式会社

▼ほぼ同アングルから撮影した現在の風景。中央奥の大手町ビルは
変わらないが、手前のビルや一番奥のサンケイビルなどが高層化
されるなど、わずか20年ぐらいの違いだが街の雰囲気は一変し、
行き交う人々の表情もずいぶん違う。



部下からも相手にされず、家庭では息子とうまくいかない定年間近のサラリーマンが、若い頃に情熱を傾けたジャズのコンサートを開こうとする姿を描くちょっと甘くせつない物語。主人公の花岡(ハナ肇)が務める商事会社など、映画の題名が示すとおり会社シーンが数

多く出てくるが、そのほとんどが大手町や丸の内のでロケされている。映画からリアルに当時の街の空気が伝わってくるが、現在は大手町境界もインテリジェントビルが建ち並びその雰囲気もわずか20年でずいぶん変わってしまったことに気づく。



Yurakucho 1952

裕次郎も愛用した日活ホテル。
いま、新しいホテルブランドが誕生しようとしている。



⑥映画「お茶漬の味」(1952年公開)より=祝田橋方面から、当時の日活
国際会館(日活ホテル)を見る。
日活国際会館上層階は日活ホテルと
なっており裕次郎もここで結婚式を
あげた。
監督・小津安二郎
写真協力:松竹株式会社



ペンシユラホテル完成予想図▶

▼日活ホテルは後に日比谷パークビルとなり、2007年、今度
は国際的なホテルブランド、ペンシユラホテルとして生まれ
変わる(矢印部分、現在は工事中)。



田舎出身の夫(佐分利信)と上流階級の洗練された雰囲気 で育った妻・妙子(木暮実千代)は結婚して7~8年。そろそろ、心のすれ違いが気になり出すころ。些細な出来事の連続で一時は夫婦間に亀裂が生じるが、やがて再び心を通わせるようになるという、夫婦の機

微を描いたいかにも小津監督らしい作品。いきなり、妙子が日比谷通りを銀座までタクシーで乗りつけるというシーンで始まるが、タクシーのフロント越しに移り変わっていく景色は、都電が走っていたりするなど当時のお堀端の様子も伝わってきて興味深い。





松竹株式会社 元助監督 田中康義

私が小津組に参加したのは、「早春」「東京慕情」「彼岸花」の3作品です。1950年代当時、丸の内は勤め人のメッカで会社勤めのシーンなど丸ビルを中心にずいぶん撮影しました。小津監督は非常に綿密

1950年〜1960年代の丸の内は、映画ロケでいつもにぎわっていた。

にロケハンし、助監督やプロデューサー、スチールカメラマンなど多いときは10人以上のスタッフでこの界隈を隅から隅まで歩いたものです。ビルも普通の観光写真のように撮らず、ビルとビルの間から人間の目線で下からあおって撮るといった独特の角度でした。それが小津映画の特徴でもあったわけです。

ロケというのは、何の説明も必要とせず街の匂いを画面から伝えることができるので、映画の中では非常に重要です。ですから、時として俳優さんを撮るときより慎重に、時間をかけてビルを撮ることもありました。

丸の内、大手町、有楽町も当時とずいぶん街並みが変わってしまいましたが、ピンポイントで見ると今でも案外変わっていない場所もあるんですよ。有楽町から東京駅に向かうガード下なども昔の面影が残っていて好きな風景ですね。先日歩いてみたら、「ミルクワントン」(実は居酒屋)という当時から有名な店がまだ健在で懐かしく思いました。

「松竹110周年祭～日本の美がここにある～」

●期間/11月19日(土)～12月16日(金) ●場所/シネスイッチ銀座
 「日本の美」をテーマに8つのキーワードのもと、選りすぐりの41本を上映する「松竹110周年祭」が上記日程で開催されます。本誌で紹介している小津監督「お茶漬の味」をはじめ、「マダムと女房」(五所平之助監督)や「簪」(清水宏監督)など1930年代～50年代の映画も数多く上映。映画ファン必見といえる充実した内容です。詳しくはHP (<http://www.shochiku.co.jp/>) を。

東京ビル竣工。

10月17日、「特例容積率適用区域制度」や「育成用途の集約化を可能とする特例」を活用した東京ビルが竣工した。

[建物概要]

敷地面積：約8,100m²

延床面積：約150,000m²

最高高さ：約164m(B4F～33F)



「有楽町駅前第1地区第一種市街地再開発事業」着工。

6月16日、有楽町駅前第1地区市街地再開発組合は、JR有楽町駅前約1.5haの敷地に、高層複合ビル建設等を行う「有楽町駅前第1地区第一種市街地再開発事業」新築工事を着工した。竣工は2007年10月の予定。

[高層複合ビル概要]

敷地面積：約6,800m²

延床面積：約75,900m²

最高高さ：約110m(B4F～21F)



「ガイドライン2005」。

「大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり懇談会」は、2000年策定の「まちづくりガイドライン」を「ガイドライン2005」へと更新した。対象区域の拡大や高さ制限の緩和だけでなく、環境共生・安全安心まちづくり等への対応や検討も盛り込まれている。詳細はこのサイトで。
<http://www.aurora.dti.ne.jp/~ppp/>

大丸有打ち水大作戦実施。

8月10日(全国一斉打ち水の日)から8月31日まで、当地区で打ち水大作戦が実施された。「文部科学省前仲通り付近」「東京サンケイビル前広場」を皮切りに、最終日の「東京国際フォーラム」まで約20日間、「一斉打ち水」と丸ビル脇での継続的「プチ打ち水」が行われた。



映画ロケ地MAP



※矢印は、撮影方向



発行：大手町・丸の内・有楽町地区
再開発計画推進協議会

〒100-8133 東京都千代田区大手町1-6-1
大手町ビル635区

TEL.03-3287-6181 FAX.03-3211-4367

ホームページ <http://www.lares.dti.ne.jp/~tcc/>

*本誌に関するご意見、ご感想等ございましたら
下記までお寄せください。

e-mail: tcc@lares.dti.ne.jp